

準解析的手法による 銀河形成研究の展望

2006/12/4-8

於

長崎大学教育学部

研究会の目的

- ν GC, 三鷹モデルを始めとする準解析的銀河形成モデルの現状を確認し、今後の発展方向について議論する
- モデルの対象が多岐に渡り、全体を把握することが難しくなってきた
 - モデルを使っている人（開発&応用）たちの間で、最新の結果を共有する
 - 同じモデルを使って異なる対象について研究している人々の間で、新たな方向性・共同研究が生まれることを期待

研究会の目的

- SAモデルと相補的なシミュレーション（N体、流体、銀河形成）の状況、展望を見る
 - sim \rightarrow SA（計算結果をモデルに取り込む）
 - SA \rightarrow sim（simで詰めるべき点をクリアにする）
- 今後ターゲットにすべき観測を挙げる
 - 現在、観測グループで焦点になっている・なりつつある課題
 - 理論的に今後重要になると思われる課題
 - 予言ができるか？

研究会の運営

- 形式よりも、実質を得ることを目指す
- 内輪のセミナーという雰囲気
- 微に入り細に入り理解する
- 今後の方向性まで議論できることを期待

- 電子ジャーナルは読めませんが、astro-phの印刷等要望はどんどん言ってください。
- 少人数なので、参加者の意向で臨機応変に進めたいと思います。
- プレゼンファイルをもって電子集録に代えたいと思います。